

会議録

名称	令和３年度第１回坂戸市総合計画審議会
開催日時	令和３年７月１日（木） １３時３０分 開会 １５時３０分 閉会
開催場所	本庁舎 ３階 全員協議会室
出席者の氏名	庭田 文近委員、井元 りえ委員、池田 一夫委員、 佐藤 和恵委員、房野 洋委員、高橋 光行委員、 及川 青児委員、戸口 秀雄委員、関根 正昌委員、 福沢 猛委員、長洲 義光委員、加賀谷 幸昭委員、 村田 千鶴委員
欠席者の氏名	丸山 元孝委員、富澤 昌樹委員
事務局職員の 職・氏名	総合政策部 部長 楠本 圭司 次長 石坂 知巳 政策企画課 課長 鈴木 貴之 係長 田村 和也 係長 岡崎 絵里子 係長 松本 裕一郎 計画策定支援 有限責任監査法人トーマツ 事業者 マネージャー 伊加田 直孝 シニアスタッフ 塚越 敬介 スタッフ 渡邊 智洸
会議次第	１ 開会 ２ 挨拶 ３ 審議事項 ４ その他 ５ 閉会
配布資料	次第 【資料１】【資料２】現行計画の検証結果 【資料３】坂戸ワールドカフェ実施結果報告書 【資料４】社会情勢分析 【資料５】指標調査 【資料６】財政分析 【資料７】第２期坂戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略にお ける令和２年度取組状況について 【資料８】次期坂戸市総合計画策定にかかる各種会議等につ いて

議事の経過	
発言者	発言
市長	市長より委嘱状交付後、市長挨拶 時代はどんどん変わっている。総合振興計画に書いてあっても必要ないものはたくさんある。坂戸市は条例により総合計画を策定するが、作るなら市民にとって良いものを作りたい。 坂戸市で生まれ育った子供たちに住んでもらい、子育てをしてほしい。父や母、祖父や祖母のところに住むことほど嬉しいことはない。これが私のまちづくりだと考えている。 そのためには坂戸市に住みたいと思ってもらうことが必要であり、単純だがこれ以上に難しいことはないと考えている。ある程度大雑把で自由がきき、わかりやすい総合計画が策定されることを期待している。 (市長退席)
事務局	1 開会 皆様大変お忙しい中、御出席を賜り感謝申し上げます。ただいまから、令和3年度第1回坂戸市総合計画審議会を開会する。 現在の出席者13名、欠席者2名となっている。坂戸市総合計画審議会条例第6条第2項の規定により、定足数に達しているので、本会議は成立したことを御報告する。 また、本審議会の会議は、公開であることをあらかじめ御了承いただきたい。 はじめに庭田会長から御挨拶を申し上げます。
会長	2 挨拶 委員皆様にはお忙しい中御出席いただき、厚く御礼申し上げます。 本日は、第6次坂戸市総合振興計画の後期基本計画の検証結果と次期総合計画の策定に当たり実施した基礎調査の分析結果の報告を中心に御審議いただく。委員皆様におかれまし

	ては、それぞれの関係団体というお立場や、市民という視点で議論いただけますようお願い申し上げます。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、短時間で行えますよう円滑な議事進行に格別なる御協力をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。
事務局	委員の皆様、事務局及び計画策定業務支援事業者の自己紹介は名簿及び席次表をもって代えさせていただきます。
会長	本日は1名の傍聴希望者がいらっしゃるが、委員の皆様には入室を御了承いただけるか。 (委員より了承をいただく) (傍聴希望者入室)
	3 審議事項
	(1) 第6次坂戸市総合振興計画後期基本計画の検証結果について
会長	はじめに、次第の3審議事項(1)「第6次坂戸市総合振興計画後期基本計画の検証結果について」を議題とする。
事務局	(事務局説明)
委員	防災減災について、震災だけではなく水害についての訓練もどこかに加えていただくことは可能か。
事務局	現在の検証シートは東日本大震災の直後に作成したもので、震災についての記載が多くなっている。台風の被害もあったため、計画には水害についての記載や新型コロナウイルス等の保健衛生についても記載していきたい。
委員	学校教育について、昔は勉強だけだったが、今では先生が子供の生活面までケアしないといけなくなっている。先生の負担を軽減できる方法があれば計画に加えて欲しい。

事務局	教育長もいじめは根絶したい、また合わせて教職員の負担軽減も図りたいという強い意志を示している。いじめの根絶については何かしら数値的な指標を示せると考える。教員の負担軽減について数値的指標があるかわからないが、教育委員会と相談していきたい。
委員	資料2のNo.4行政経営のホームページサイト訪問者数について、訪問者数はホームページのみの数値か。ホームページの訪問者数で行政経営についてのヒントは得られているのか。
事務局	市のホームページを見に来てくれた方の数となっている。それぞれ個々のページの閲覧数の積み上げとなっており、行政経営上も各ページの閲覧数を見ながら適切な判断をしている。また、ホームページの各コンテンツで満足度を計っているので、一つの指標として考えられる。
委員	検証結果については、計画策定にあたっての課題共有というものという認識でよいか。
事務局	こちらは第6次坂戸市総合振興計画の中での最終年度の目標値がこの目標値に入っており、現状では令和元年度の数値と令和4年度末に見込まれる数値が入っている。それを踏まえて達成できたものや、未達成のものについて分析して、改めて方向性を検討する。
会長	見込み値はシミュレーションなどで推計して設定しているのか。
事務局	所管課において現状から導き出せる数値を推計で出している。
委員	ファーマーズマーケットの整備が実績の中にあるが整合性がわからない。振興計画の中には課題に環境情報発信の充実と記載があるが、発信している事実があるのかわからない。次にステップアップするために、なにかこの場で決める

事務局	のか、それとも検証結果として報告を受けるだけなのか。 事前に目的を共有してくれないと発言できない。 今回検証結果を皆様にお示ししたのは、委員の皆様から足りない部分や、次のステップへ進んでよい等の御意見をいただくためである。 検証結果を受けて草案を作成するので、記載の内容等についても見てもらいたいと考えている。 (2) 市民ワークショップ（坂戸ワールドカフェ）の開催結果について
会長	次に、(2)「市民ワークショップ（坂戸ワールドカフェ）の開催結果について」を議題とする。
事務局	(事務局が説明)
委員	参加者の構成や年代を教えてください。
事務局	男性が5名、女性が3名となっている。参加者の年代は30代2人、40代1人、50代1人、60代2人、70代2人である。
委員	若い世代の意見を吸い上げることは大切だと感じる。参加人数が少ないが、どのように呼びかけたのか。
事務局	ホームページと広報、また市内在住の方で18歳以上の方を抽出して直接手紙を送付した。元々はオフラインの予定だったが新型コロナウイルス感染症の影響もあり、オンラインで実施した。また、若い方の意見だが、7月16日に市内の高校4校を対象に、高校生を集めて坂戸市の将来像等を伺うワールドカフェを開催する予定である。
委員	子供も一人の人間として、尊重して意見を受け止めてほしい。お飾りにならないように、若い市民の意見を聞いてほしい。

事務局	最近市長も教育の関係で思いがあり、子供も一人の人格であり、きちんと耳を傾けなさいと職員にも周知していることもあるため、きちんと受け止めたいと考えている。 (3) 基礎調査（社会情勢分析、指標分析、財政分析）の分析結果等について
会長	次に、(3)「基礎調査（社会情勢分析、指標分析、財政分析）の分析結果等について」を議題とする。
事務局	(事務局から説明)
委員	新型コロナウイルス感染症がいつまで続くかわからない中で次期総合計画を策定するのは大変だと思うが、新型コロナウイルス感染症についての影響が資料から読み取れない。
事務局	新型コロナウイルスワクチンの接種については、今年度に限っては、国がワクチン接種に係る費用を負担しているが、来年度以降どうなるのか何も示されていない。市としても来年度以降どうするのかシミュレーションする必要性を感じている。市の今年かかった費用としても3～5億円くらい見込まれている。それが来年度以降続き、国の方で費用の支援を断つとなると大変なことになるが、毎年度の予算編成の中で適切に対応していかざるを得ないと考えている。 現状でも各種基金合わせると概ね36億円くらいは確保できている状態なので、不測の事態が起きた場合にはこの基金を大切に有効に使いながら対応していきたいと考えている。他の自治体に比べると議会でも基金が多すぎないかと質問をいただいたこともあるが、出来るだけ基金残高を適切に保つことができる財政運営をしていきたいと考えている。
委員	新型コロナウイルス感染症が収束されない中で来年度の予算編成は議論になるかと思うが、年金の受給額が下がるなどの動きがある中で、新型コロナウイルス感染症対策の予算のための増税は市民に説明できないと思う。 そういったことを考えるといろいろなデータの中から政

	策を組み立てることは大事だと思うので、市民から理解される計画を作ってほしい。
会長	都市基盤のところで災害に強い水道の整備を課題としているが、これはどこから導き出されているか。
事務局	水道の耐震化は県平均 33.5%と比較して 28.9%ということで、まだ低い状況なので、このデータを見て、水道の整備も課題であると把握している。平均から乖離が大きいものを重点的に課題としてとらえているところである。
委員	今後 10 年間を考えた際にどのように財源を確保できるのかが心配である。坂戸は水害に対して力を入れてきたが、今後は、集中豪雨も温暖化の関係でこれから増えてくると思うので、災害に関しても今までの対策では追いつかないと思う。いざというときに財源がないと対応できない。市民が一番不安なのでそういうところだと思う。大きな災害が発生すると市民の命に直結する問題なので力を入れて欲しい。今まで大きな災害がないので軽視されているような印象を受ける。
事務局	御意見として承る。
委員	教育の面で先生の負担が大きい勉強・生活面のケアに加えて、今年度から GIGA スクール構想が開始されて学校によって運営の質にも差が出ていることを問題視している。 国から予算がつく GIGA スクール推進委員が何名か派遣されているが、小学校に月に一回行けるくらいの配置と聞いている。推進委員の人たちは GIGA スクール構想を推進するためなので、ハード面の作業を手伝っている状況である。授業で活用できる段階ではなく、そのための人員が必要になるが、坂戸市にはその予算がついていない。現状、授業でどうやって使うのか先生方は手探り状態だ。学校によっては IT が得意な先生がいて、うまく活用してどんどん進んでいくところもあるが、学校によって差はどんどん広がっている。

	そういうところは市費で予算を付けない限り支援ができないので、検討してほしい。特に公立で格差があるのは問題である。
事務局	教育委員会と相談しながらになるので、御理解いただければと思う。
委員	教員一人当たりの中学生徒数に関して、教員の負担軽減の必要性があるとのことで、明確に教員の数足りないことが読み取れる。GIGAスクールもとても重要だと思う。 大学でもデジタル教科書や生徒全員の意見が瞬時に分かるアプリケーションを使用しており、こういった部分に力を入れていくべきだと思っている。
	(4) 第2期坂戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略における令和2年度取組状況について
会長	次に、(4)「第2期坂戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略における令和2年度取組状況について」を議題とする。
事務局	(事務局が説明)
委員	魅力を発信するのであれば、SNSを活用してフォロワー数を増やすなどの指標を目指すのを方が今後よいのではないか。ホームページによる発信は市民が情報を収集するためのものであって、市の魅力の発信という側面では十分活用されにくいと思う。
事務局	これから作る総合計画にはSNSの利活用の数値指標等を測定できればと考えている。なお、実績値が上がったのは、新型コロナウイルス感染症によるホームページ閲覧数増加の影響が出ている。
会長	ホームページのアクセス解析も重要である。コンテンツごとの訪問者の属性や行動を把握することによって、戦略的な情報発信に活かせる。

事務局	ツイッターは文章が中心だが、インスタグラムは写真と動画が中心。各SNSの強み弱みを活かした情報発信ができればと考えている。
委員	医療について、指標がソフト面しか書かれていない。ハード面で言うと、特に今回の新型コロナウイルスワクチン接種のインターネット予約について整備がされていなかった。 坂戸市は起きてからツールを探す傾向がある。ソフト面だけでなくハード面に関しても考えなければいけない。もっと前向きに坂戸市の方針を固めてから、予算等を考慮すべきではないか。
委員	市内の中で自主防災組織と自治会の組織があるが、首都圏で460万人の被災者がでると1都6県であるので単純計算で60～70万人の被災者がでることが想定される。そのような中、市内の対応としてどのように考えているのか。 また、その対応のための財源についてどのように考えているのか。
事務局	460万人の被災者は、国が想定した数値である。23区だけでは460万人の被災者の対応は難しいため、近隣の県に助けをもらう必要があるということを記述しているものである。 具体的に、坂戸市としては防災マップを全世帯に配布し、水害の時の避難場所、震災の時の避難場所、そして避難生活が必要になった場合の避難所を整理しているので、これに基づいて対策をしていくことになる。避難生活の際に、食料、寝床等を提供するのは市の仕事であると考えている。
委員	仮に他市町村の人を受け入れざるを得ない場合の対応力はあるのか。
事務局	東日本大震災の際に受け入れた実績はある。全てのケースをシミュレーションするのは困難なので、被害の状態を踏まえて、市内の状況を把握し、適切に判断しながら今後の対応を検討することになると考えている。

会長 事務局 委員	4 その他 (1) 次期坂戸市総合計画策定に係る各種会議等について 次に、次第の4「その他」について事務局から説明いただきたい。 (事務局説明) 縦割りではなく横断的な情報共有をしてほしい。複数の課題を一緒に解決できないかというような賢さも必要になるのではないか。 例えば電子マネーの詐欺被害の対策について、単にマネー講座を行っても集まりが悪い。そもそも高齢者が移動したがないなら、どうすれば移動するのかを考えて、耕作放棄地にみんなで集まり地域で菜園を作るイベントを企画し、高齢者が集まったところで別の講習も行うなど、複数の課題をまとめて解決できる可能性もあると考える。 5 閉会 以上
--------------------------------	--